

## 注目の「新進」から本格的な大群舞まで

全国新進舞踊家による

### 現代舞踊フェスティバル in 東京

今年もへ全国新進舞踊家による現代舞踊フェスティバルが行われた。この公演は、文化庁の「次代の文化を

## 舞踊評

創造する新進芸術家育成事業」のひとつとして行われるようになり、二〇一一年からは全国各地の新進舞踊家の作品が並ぶようになった。全国各地に育つ注目すべき「新進」として、私は中部支

部の『J&B』苅谷夏、関東ブロックの『水と風』鈴木泰介・費田麗帆、関東ブロックの『人魚』水島晃太郎、東北支部の『チイサナセカイ』川村真奈の四作品に注目した。山本祐実とのデュエットを

創った苅谷は、名古屋の倉知外子と札幌の能藤玲子に学んだという異色の経歴の人。中部支部の重鎮だった奥田敏子から倉知外子につながる奥行きを感じさせる動きの質感、茫洋とした北の大地の時間の流れを思わせる能藤の微妙な舞台移動の態様ぶりを苅谷は確かに受け継いでいたと思う。鈴木・費田は、二〇一四年

の埼玉コンクール創作部門でトップになったリフトの名人コンビ。ここでは齋木穂乃香と村山藍子を加えた四人の踊り

品で注目を集めた流麗な動きをここでも使い、パンチ力十分のソロを披露した。

サナセカイ』は今年一月に東京で初演したばかりの女性六人の佳作だ。ふわっと柔らかな感覚がなんともたまらない。飯塚真穂『Break』Tino

本は、いずれも本格的な作りの大群舞作品だった。群舞の扱いが手慣れた飯塚のすっきり感、川野のパワー全開ぶり、

りで自然を描き隙がなかった。水島は、富山の和田朝子門下。二〇一六年の東京新聞全国コンクール現代舞踊成人の部で『人魚』を踊りトップ

川村は、母親の川村泉に学んだ後、ドイツ留学。二〇〇四年の秋田コンクールでグラインプリを取りニューヨークへ進出した。一五年に帰国して今は日本各地で踊る。『チイ

サナセカイ』は今年一月に東京で初演したばかりの女性六人の佳作だ。ふわっと柔らかな感覚がなんともたまらない。飯塚真穂『Break』Tino

飯塚の構造的な安定感、どう考えても「新進」の枠に収まるものではない。(八月二十五日、メルパルクホール東京) 山野 博大

になった。すでに和田伊通子、若松美貴、平山素子などの作